
本年度の活動計画を協議 ～若手委員会・女性委員会～

<若手委員会>

5月15日、徳島市のあわぎんホールにおいて、本年度の「若手委員会」を開催しました。会議ではまず若手委員会の意義、役割として、絶えず新たな後継者を迎え入れながら、若手とベテラン会員がそれぞれの持ち味を発揮することが、これからの老人クラブには必要であり、そのためも若手高齢者を迎え入れる専門機関として、またリーダー養成の場として、若手会員の組織化を図ってほしいと説明しました。



続いて、昨年度行ったシルバー大学生に対するアンケート調査の内容を報告、未加入者のほとんどが「まだ老人でないと思っている」と回答している事を伝えました。「老人クラブという名称がいやだから」と回答した方も3割近くおられ、このことに対し委員から、「老人」という言葉に抵抗感を感じる方が多く、「老人クラブ」の名称を変更してはどうかとの意見が出されました。名称論については度々全国的にも取り上げられますが、現在の見解としては、「高齢者の中には『老人』と呼ばれることに対し抵抗感を感じていない方も多く、積極的に変更する理由がない」としています。

本年度の活動計画として、高齢者地域リーダー研修会（新任会長・若手リーダー研修会）の開催と若手組織化の推進（現在24市町村中9市町村で組織化）、単位クラブの活性化に向けた活動状況の調査や活動支援、老人クラブ活動をPRするための「のぼり」の作成や新たなチラシ製作などが承認されました。

<女性委員会>

若手委員会が行われた翌日の5月16日、同会場において、「女性委員会」が開催され、本年度の事業計画等を協議しました。

まずはじめに「東日本大震災」被災者に対する支援活動として、本会が取り組んだ義援金及び「元気袋」製作に対するお礼と、昨年11月に東京都で行われた「全老連女性リーダーセミナー」へ、本県の代表として参加した三好市の中谷さんより、



セミナーの概要とあわせて、震災を機に地域におけるつながりが再認識されるなか、老人クラブの重要性をあらためて確認したとの参加報告がありました。

続いて、本年度の女性リーダー研修会の計画について話し合わせ、全老連の「生活モニター活動」の結果をテーマ（「暮らしの支え合い」）とした講義と、フォークダンスをテーマとした実技で実施することになりました。

最後の議題として、平成22年5月から女性委員長を務められてきた勝本妙子さんから辞任の申し出があったことを伝え、後任者について協議、その結果、宇山久子副委員長を委員長として選任、新たに美波町の羽里敬子さんが副委員長に選任され、次のとおりとなりました。

女性委員長	宇山 久子（美馬市）
副委員長	丸野ユキエ（佐那河内村）
副委員長	羽里 敬子（美波町）